## 「地域共生のための対人援助システムの

構築と効果に関する検証」


学校法人広島文化学園理事長 森 元 弘志


平成 28 年 11 月，文部科学省の私立大学研究ブランディング事業のタイプA「地域展開型」として，「地域共生のための対人援助システムの構築と効果に関する倹証」を研究テーマに応募したところ，全国で申請した大学 129 校のうち 17 大学の 1 校として選定されました。
今後 5 年間にわたって，広島文化学園HBG対人援助研究センターを核とした研究ブランディング事業の成果を「乳幼児から高齢者，障害の有無に関わらず，すべての人々が健康に暮らす共生社会の実現」と，「自治体などと共に社会的弱者と呼ばれる人々を対象とした施策展開」に反映させることを目指し，地域に貢献できる大学として取り組みを進めてまいります。

広島文化学園大学•短期大学は，医療•教育文化•健康•福祉などの広い分野で人間の健康と成長を支援する専門的職業人を育成しています。
文部科学省から選定された研究ブランディング事業では，阿賀キャンパス，坂•郷原キャンパス，長束キャン パスにおいて，地域の皆様の集いの場である「来んさいカフェ」を開設します。この「来んさいカフェ」を地域の皆様に利用いただき，運動やスポーツを通した健康づくり，健康相談や調査に基づいた健康増進，子どもの発達や子育ての相談等の活動を行うことを通して，乳幼児から高齢者，障害の有無に関わらずすべての人々が健康に暮らす共生社会を実現していきます。本学の取り組みによる研究成果を自治体や関係機関に提供すると ともに，地域の皆様からの意見や要望等に応えられる地域に根差す大学として取り組みを進めてまいります。

## 事 業 概 要

支援を必要とする子ども，障害児•者，高齢•認知症者 が健康に暮らす共生社会の実現のために，HBG 対人援助研究センターを核として，集い の場となる「来んさいカフェ」 を提供します。
看護•医療福祉，スポーツ・健康福祉，子ども子育て・教育福祉の 3 研究部門から，「カ フェ」における対人援助プロ グラムと持続可能な地域支援 サポーター養成プログラムの開発と検証を行い，本事業が地域の活性化に結びつくこと を実証します。

地域共生のための対人援助システムの構築


## 看警•医療滑社研究部門

看護学部ガ行う「来んさいカフェ：吳」では，要介護になら ないような健康つくり，椥症の予防，なおかつ，認知症に なったとしても安心して住み慣れた地域で暮らし続けるため の，HBG 看護カフェプロブラムを開発し，その支援の有効性 について研究•検証します。特に，これまで看蒦•医療と福祉 で個別に行われてきた分野を，看護医療福祉の観点から，地緑 を活かした，豊かな世代間交流の場を生む住民主体のカフェ プログラムを開発し，検証します。


研究推進者



## スポーツ・健康楊祅研究部門

子ども，障害者，高齥者など運動能力が違っていても，誰も が一緒に楽しんで行うことができるスポーツを，アダプテッ ド・スポーツといいます。スポーツ・健康福社研究部門では， このスポーツを地域住民の方々に実践していただくことによ り，参加された皆さんが元身ともに健康で豊かな生活を送れ るように，お役に立てることを目的としています。この目的を達成するために，「来んさいカフェ：坂•郷原」においてアダ プテッド・スポーツを実施し，参加者ので意見を参考にしな がら，健康に繋がるアダプテッド・スポーツプログラムを開発します。

## 部門責任者

人間健康学部設置蓒備窒 教授
山㟝 昌 廣
学位：博士（医学）
専門公野：スポーツ健康学

## 研究推進者

## 子ども子会て・教育福祄研究部門

長束キャンパスの「来んさいカフェ：広島」では，「スヌーズ レン」を設置しています。障害の有無にかかわらず，（1）乳幼児 の発達とその保護者を対象とした支援，（2）学齢期の学習に課題のある児童を対象とした支援，（3）日常生活の栄養指導と食生活改善支援，（4）高齢者施設などでの音楽療法による支援の 4 つのセクションから成り立っています。それぞれよりよい支援プログラムを作成し，地域の人々の生活の質（QOL）の向上を図ります。後々，地域の人々と「カフェ」を共同で運営でき るように考えています。


部門責任者
子ども学科 教授／対人援助豜究カンター長
山崎 晃
学位：博士（心理学）
専門分野：発達心理学

## 研究推進者

| －入鳥美莱子（副責任者） | －⿴囗十⿴囗十⿱丆⿱⿴囗⿱一一八刂⿱丆⿱⿴囗⿱一一八刂土 伸子 | －綗本 |
| :---: | :---: | :---: |
| －和田 玲子（副責任者） | －大野品浩志 | － 江圾美佐子 |
| －時津 啓 | －尰田 敏 | 。岡田 正浩 |

